



DOJIN
R18
成人向け


コミック41ページ収録



おじさんっ！
追い掛けて来ないでっ！

私何もしてないのにっ！

へへ…待てよお嬢ちゃんっ。



森の奥へと逃げた少女を追い詰める様に
声を掛けながら進む。
男はその少女の後を尾けるー。

『やだっ…やめっ お願いおじさん…っ』
鬼ごっこが始まる。
それは、言葉にならない程の恐怖だ。

『桜ちゃんはどこかなあ？』
『捕まえたならレ●プしちやうぞお♡』
少女は嗚咽を漏らしながら、
逃げ延びようとす。

それはある日の帰り道。

緑が綺麗だな…。

あれ…？

雨も止みそうだし
もうちよっと寄り道して帰ろうかな…。

田舎に住む私は緑豊かな
自然の中を歩く！。

小鳥のさえずりがやけに
激しかったが、観察してみる。

チュン！！
チュン！！

チュン！！

私の通学路は

3時間置きのバス停留所以外
ほとんど何も無いのだ。

ザワァ……

そんな辺鄙な田舎道を歩く人なんて
滅多に居ない筈……。

はー、♡


はー、♡

んき…
んき…

その筈なのに、

なんだが男の人に
尾けられている気がする！





少し距離を取ろうと
駆け足気味にバス停留所を横切る。

緩んだウエストが気になって
つい腰回りを触ってしまう。

そしてー



私の悪い予感
は的中した。

ビクンッ
ビクンッ

ハッ
ハッ

はっ
はっ

かっ
かっ

あまっ♡

ふっ
ふっ

ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡

渡おじさんっ!?
なんで…うぐ…っ。

あれ…?
ノーブラなんだ。

この前のお盆に、
初体験してみたいって言ってただろう？

今日は…体育の授業が…っ

あまっ♡

キゅんッ
キゅんッ



それは好きな人にとって意味で…ッ!!

やめてよお…おじさんッ!

バス停には小鳥のさえずりと彼女の吐息が入り交ざる。

渡おじさんは興奮しっぱなしだ!



この人は知っている！。

あまっ♡

片道1時間掛けての登校である
私の田舎の在来線に乗り合わせる人だ。

馴染みのある近所のおじさんだった！。

あー

はー

あー

んっ

ガ
ウ
ア
ア
ア

桜ちゃん、ごめんね…
我慢出来ないんだ。

やめて！お願いっ。

キヤっ…おじさんっ！



やめてよっ…おじさんっ！





逃げなきやつ！
逃げなきやつ！
あのおじさん
近所のおの人だ。

私の頭は
混乱して
真っ白になる。



このままだと
レ●プされる！
絶対やばいっ！



お、お、お

お、お、お

お、お、お

お、お、お

お、お、お



おじさんはそのまま私を押し倒す。

水月

力任せの強行である。

お、お、お

お、お、お



お、お、お



お、お、お



お、お、お

足を担がれ広げさせられるー

はあ

はあ


乱暴な挿入に
私はびっくりした。

体勢が難しいのか
渡おじさんは私に指示する。

もっと脚を広げ、
そして……。

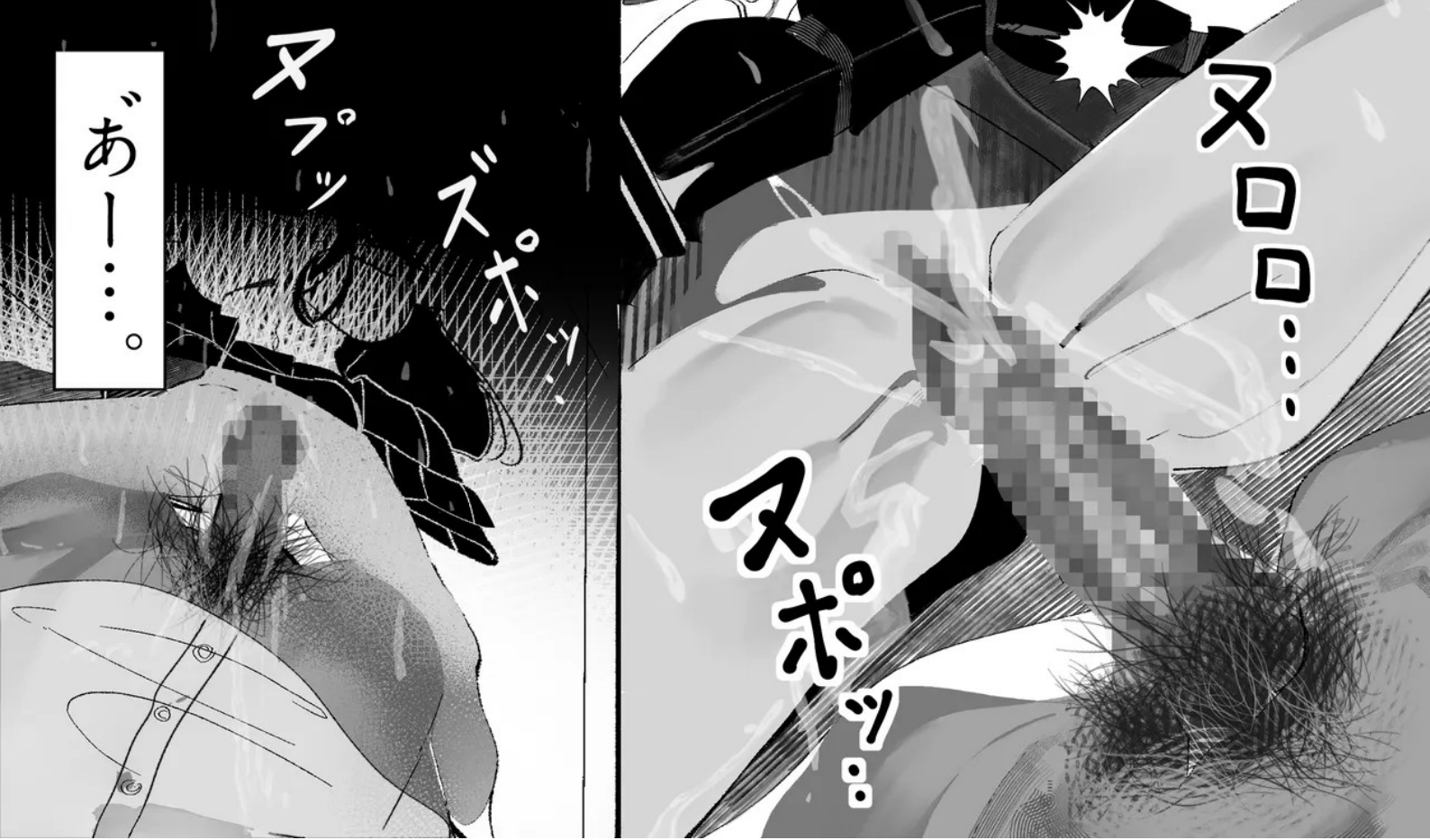
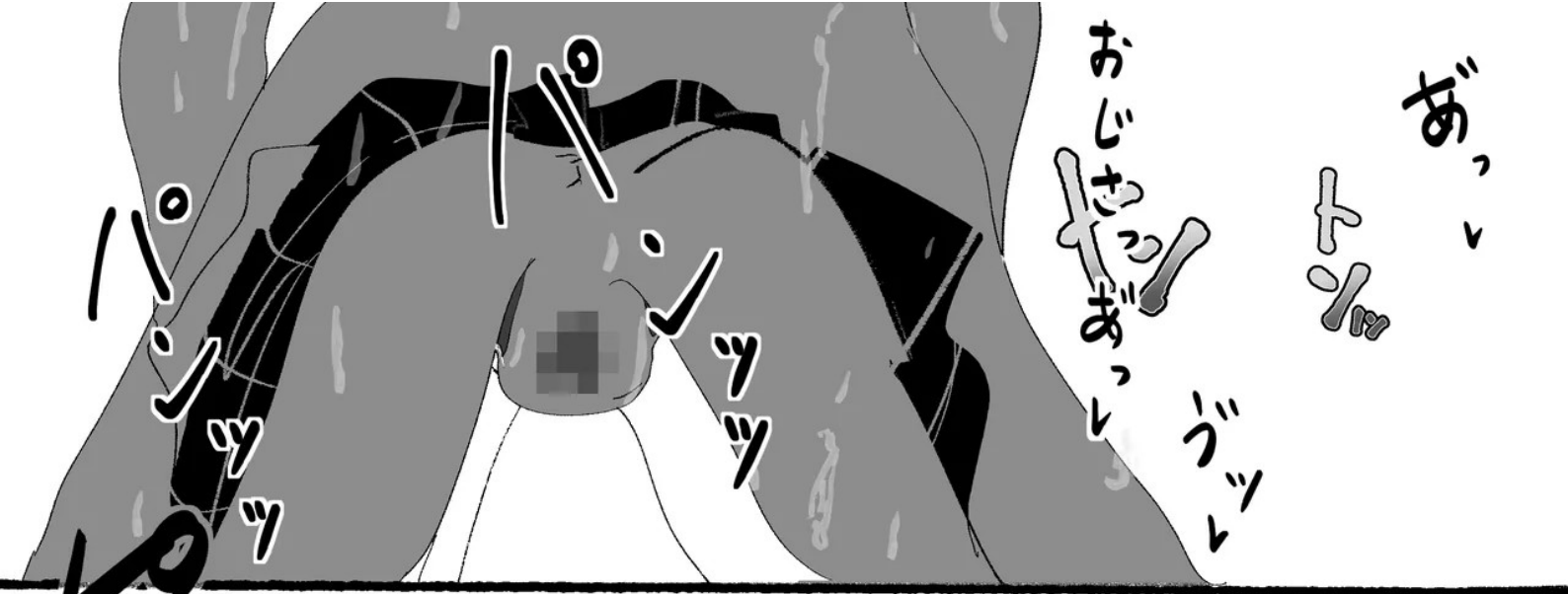
腰を突き出してくる！





私は必死に逃げようと
林の中を駆けて行く。

それでも追い掛けてくる渡おじさんの目は
私を犯●為に血眼になる。

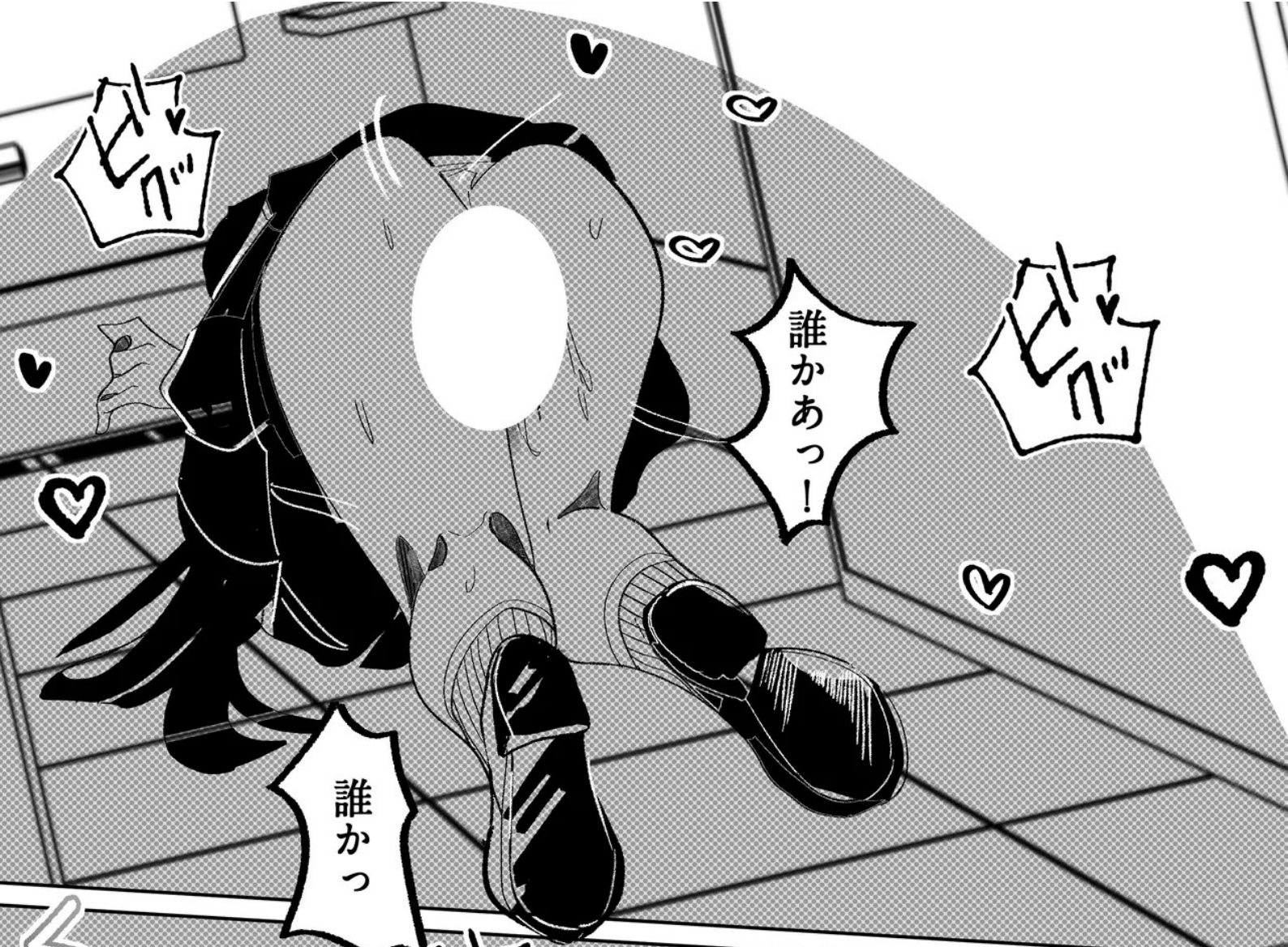


ふむ…桜ちゃんのおまんこは
●校●年生なのにほとんど無毛だったか。

そんな…っ…ま
痛い……。
おじさん…っ。

とつくに同級生の凌くんと
やりまくって大人なおマンコにな
嬉しいよ桜。





誰かあつ!

誰かつ

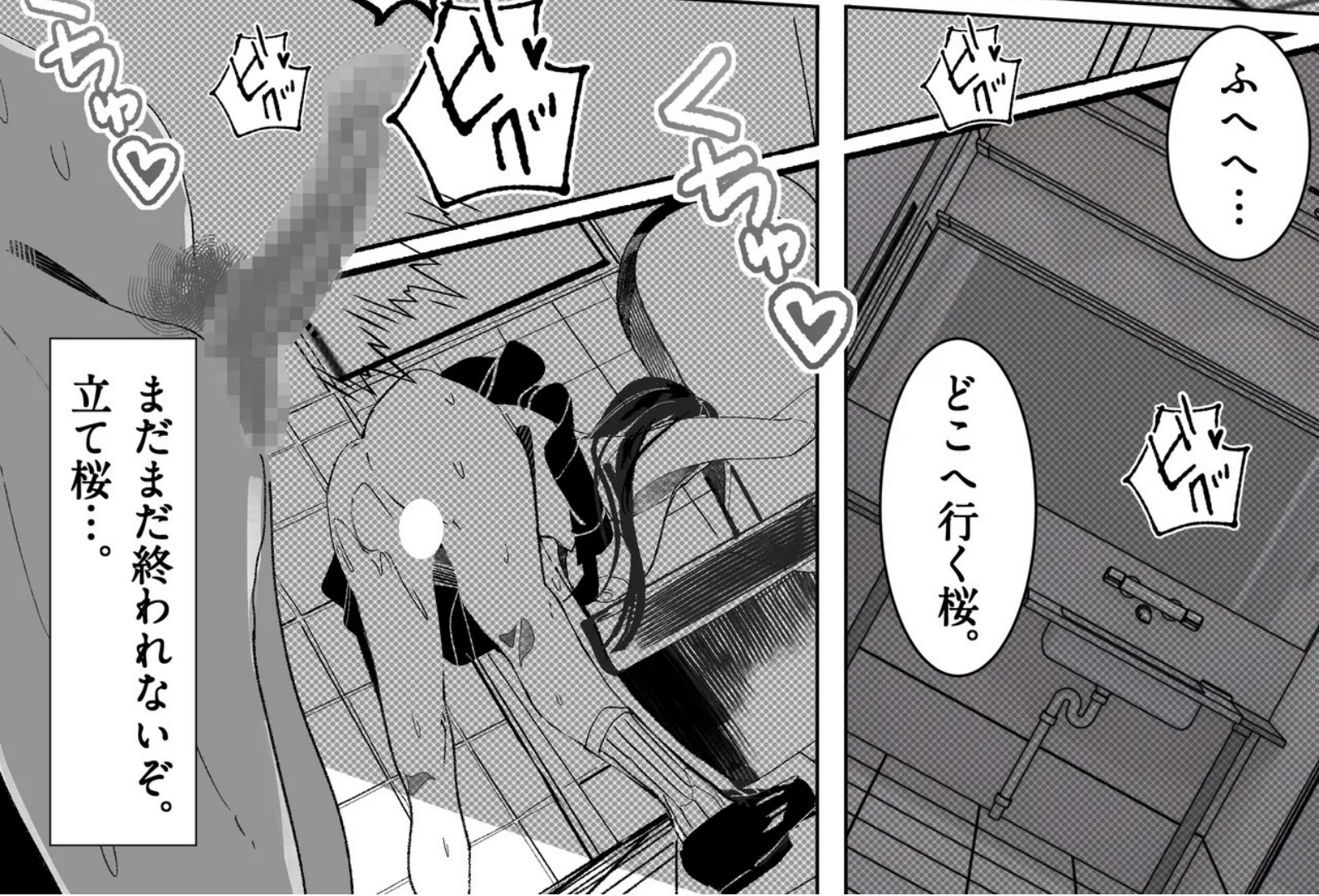
くちゅ♡

くちゅ♡

ふへへ…

まだまだ終われないぞ。
立て桜…。

どこへ行く桜。





凌、
もう行くの……？

私、
寂しい……。

わたしは渡おじさんとキスしながら
同級生の凌と見せ合っこをしていた頃を
思い出した！。

抑え切れない青春は
桜にとってかけがえのない物だった
それなのに！。



凌とまたこうして
帰れるの嬉しい！

転校してからずっと
離ればなれだったもんね。

毎回新鮮な気持ちで
恋愛感情を
共有したんだ。

桜はその度に
寂しかったが、それでも
凌への想いは変わらなかった。

スポーツの得意だった凌は
他校からの推薦で
度々転校していた。



私、凌の事
結構好きかも…。

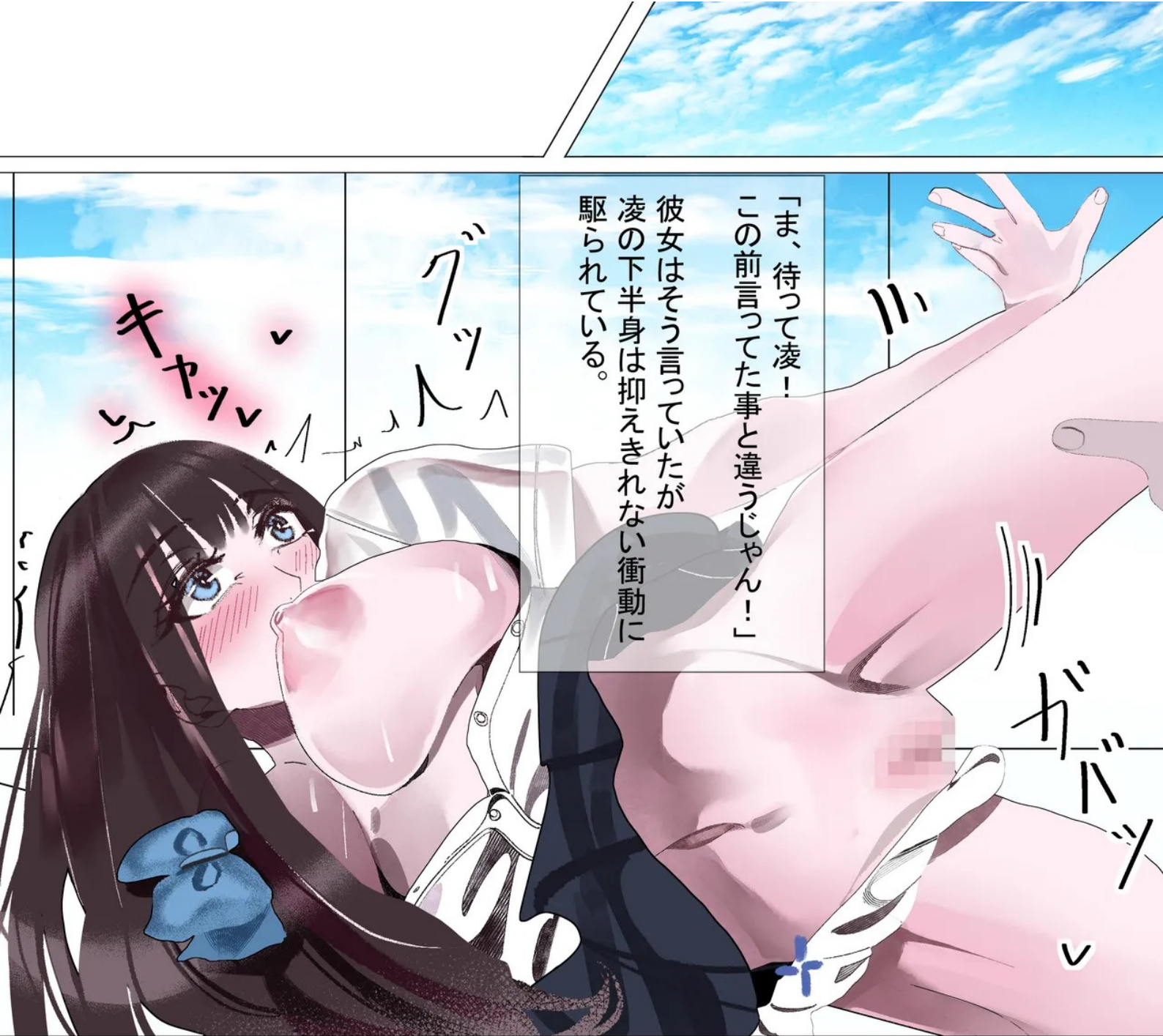
その…一緒に
やってみたいなって。

挿入はしないという約束で
結局私達は愛撫をし合った。

心で繋がれる感覚は
今まで味わったことのない感情だった。

かけがえのない思い出になる—。

それなのに—。



「ま、待って凌！
この前言った事と違っじゃん！」
彼女はそう言っていたが
凌の下半身は抑えきれない衝動に
駆られている。

キヤッ

グッ

ハ

ガッ

ハ



結局やっちゃったね。
凌はそれで良かったの？

ドキ
ドキ...

もう満足するまでやっちゃおうっ♡

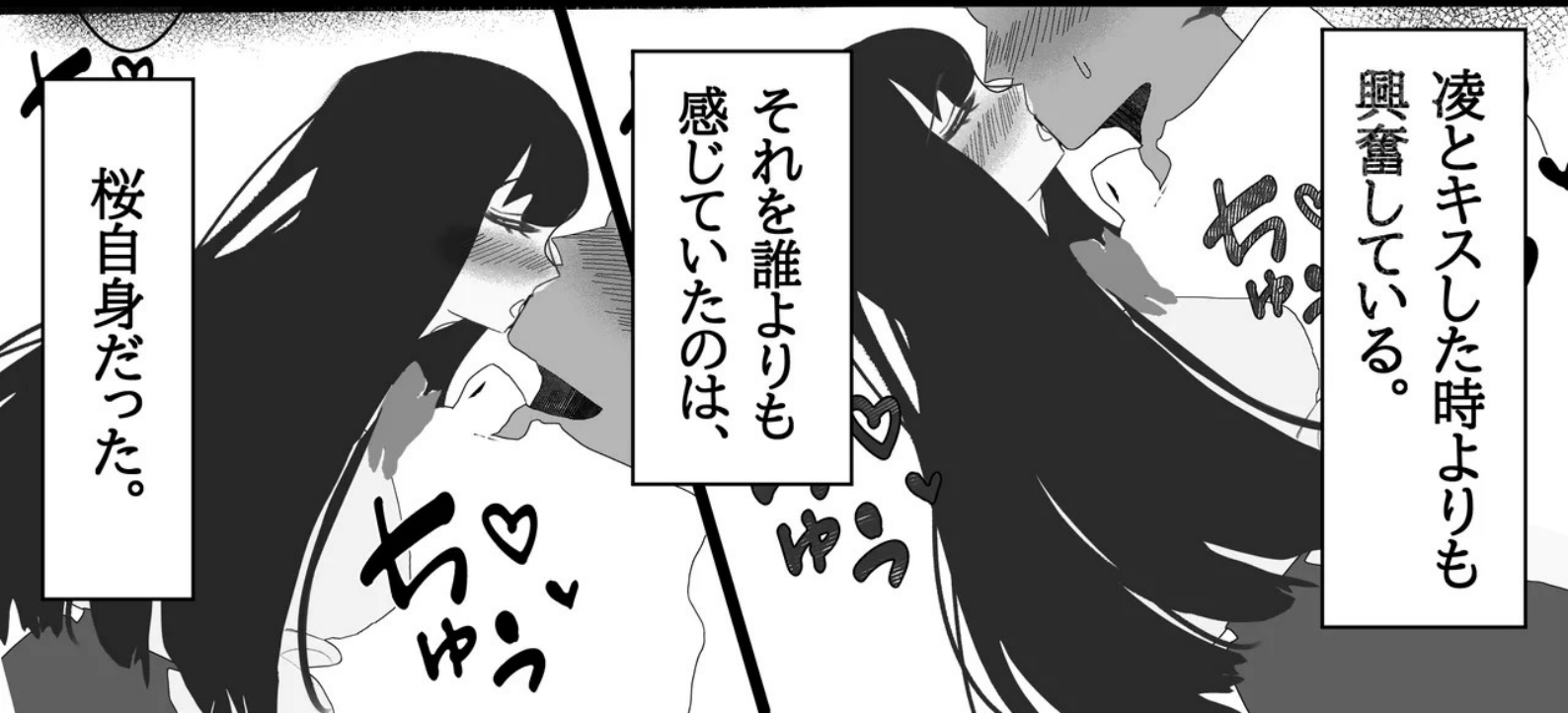


渡おじさん♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡



桜自身だった。

それを誰よりも
感じていたのは、

凌とキスした時よりも
興奮している。

ちゅ♡
ゅ♡

ゅ♡

ちゅ♡

そして、

青春はあっさりとは落ちてしまおう！。

おっ♡

キュン

イツちやいますっ♡

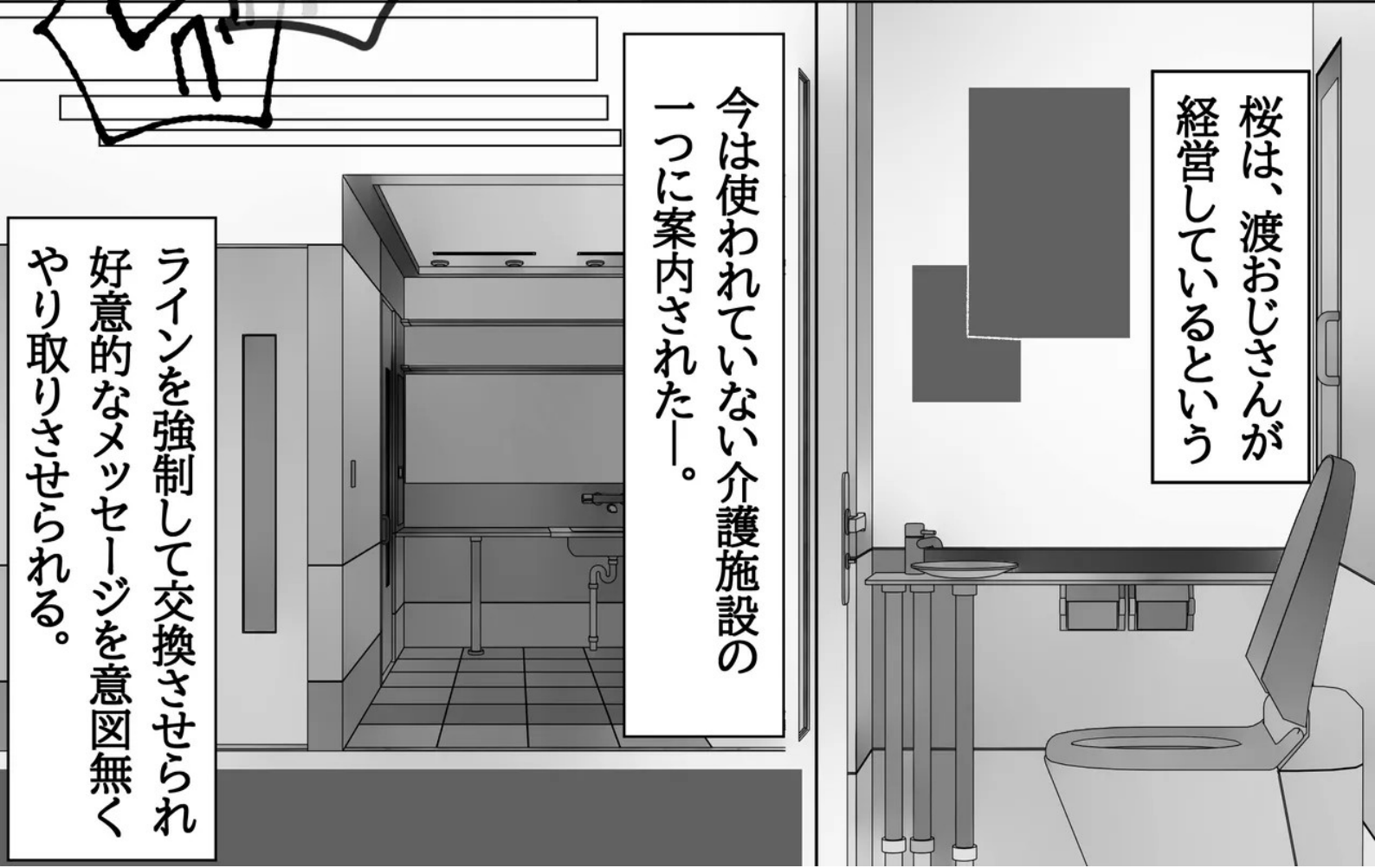
キュン

キュン

桜は、渡おじさんが
経営しているという

今は使われていない介護施設の
一つに案内された！。

ラインを強制して交換させられ
好意的なメッセージを意図無く
やり取りさせられる。



じゃ、桜ちゃん。
今日もこれ宜しくね。

ぐっ

クチュ

クチュ

それから数日間に渡り、
私は友達の家泊まるという名目で
渡おじさんに連れられた。

イラマチオとディープキスを繰り返す
渡おじさんの舌は苦い味がした！。

はっ♡

はっ♡

んあっ♡

あっ



しっかり啜えて。

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ。

ズッ

ズッ

龟头を舐めとる様に...

ズッ

ズッ♡

ズッ

ズッ



やだっ
やだっ

やだっ

孕んじゃうッ!

んっ

んっ

んっ



中出し
最高。

桜に
種付けしちゃうぞっ

おじさんと
結婚しよう。



んっ♡

あっ!

あっ♡

んっ

んっ

んっ

んっ



んっ




凌とキスしていた時に出てきたお股の愛液と同じものが若い少女の体からは溢れ出ていた！

抵抗を試みるけれど、
体から溢れ出る快樂にはあらがえない。

この薄暗さがおじさんには
好都合だったらしい！

それでも私は



それから私は、度々おじさんの経営する
介護施設の入浴場へ誘われる様になった。

安易に断ることも出来ず、
おじさんの好きなタイミングで
Hなことをされる。

毎日のように近所のその場所へと
連れ込まれるー！。

下校途中、おじさんに
下半身を触られたら
秘密エッチの合図だ！。

渡おじさんの触り方はねっとりとしていて
体が敏感に反応してしまう!!

今日もたくさんエッチしようねえ...。
孕んだら結婚しようか？桜ちゃん。

はあ...ッ

はあ

サス...

ヌルッ...







おっ♡

おっ♡

ドキッ

ドキッ

ドキッ

ドキッ

ドキッ

ドキッ



渡おじさん、そんなにおま●ご開かれたら
恥ずかしい!!!

どうしても
桜のおま●ご
見たいんだ。

あ、っ、っ
良いじゃないか。

あ、っ、っ
♡

あ、っ、っ
♡

あ、っ、っ
♡

あ、っ、っ
♡

青春少女は堕ちていくー

ザワワ マア……

しゅっ
ぶい

しゅっ
ぶい

しゅっ
ぶい



じゃあ桜ちゃん。

明日も遊ぼうね。

End